

一ノ谷池 (いちのたにいけ)

位置図



諸元

貯水量	663.0	千m ³
満水面積	28.5	ha
受益面積	206.0	ha
堤高	12.0	m
堤長	340.0	m

一ノ谷池は、寛永 16 年 (1639 年) に西嶋八兵衛により、東谷、中谷、南谷、へそ谷の 4 つの谷が手を広げたような地形のところを堤防で締め切り、ふところが広く水たまりの良いため池です。しかしながら、4 つの谷の合流点は、大蛇が棲むという“じゃが淵”と言われ、工事は難航し堤防を完成させるために人柱という悲惨な方法がとられたと伝えられています。

池の渚には、人柱を祭る「池の宮」が建立され、毎年、かんがい期の始まる 6 月には「池の宮祭典」が厳かに執り行われています。一ノ谷池明細帳写 (抜粋)「此社者寛永年中一ノ谷池築立御普請乃節人足壱人堤之底江築込則池之宮に祭」

築造後、一ノ谷池は 2 回にわたり堤防が決壊し大惨事を招いていますが、2 回目の昭和 17 年の決壊では、堤長 340m のうち 93m にわたって決壊し、下流の 5 戸 17 棟と農地 16 ha が流出したほか、約 2 km 下流に離れた当時の国鉄予讃線も 1 日不通となるほどの甚大な被害となりました。

昭和 34 年から昭和 45 年にかけて、国の補助事業であるため池等整備事業として全面的に大改修が行われ、現在は見事な「一ノ谷池」として生まれ変わり、観音寺市の穀倉地帯を支える主要なため池となっています。

また、平成 16 年から平成 20 年の間で、水環境整備事業により池の渚を活用した遊歩道を整備し、農家や非農家の皆さんのジョギング道や散策道として利用されるなど、地域住民にとって水辺空間を満喫できる貴重な場として親しまれています。



一ノ谷池



池の宮